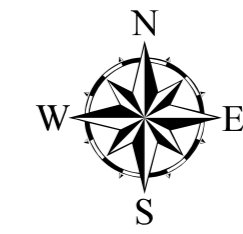




須崎港 津波防災情報図(進入図)

計算条件：最高水面
 隆起量：平均 -173cm(-194cm ~ -151cm)

津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:30,000

座標系：メルカトル図法
 測地系：世界測地系(WGS-84)

凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

○ 経時変化図出力点

最大水位上昇

- 950~最大970cm
- 900~950cm
- 850~900cm
- 800~850cm
- 750~800cm
- 700~750cm
- 650~700cm
- 600~650cm
- 550~600cm
- 500~550cm
- 450~500cm
- 400~450cm
- ~400cm

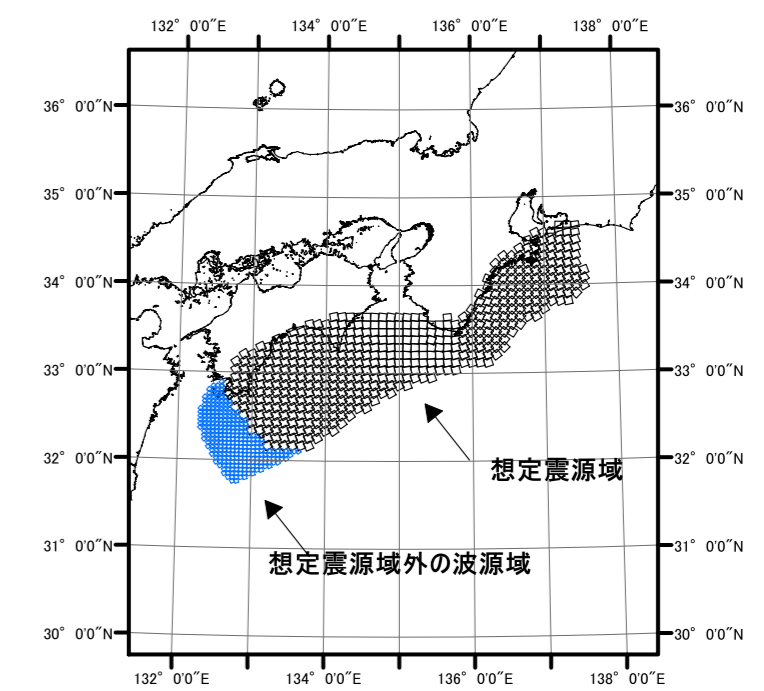
進入時最大流 [knot]

- 12 knot
- 8 knot
- 4 knot

津波の到達時間は、水位が10cm変動した時点を算出している。

海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

想定震源域と波源域の位置

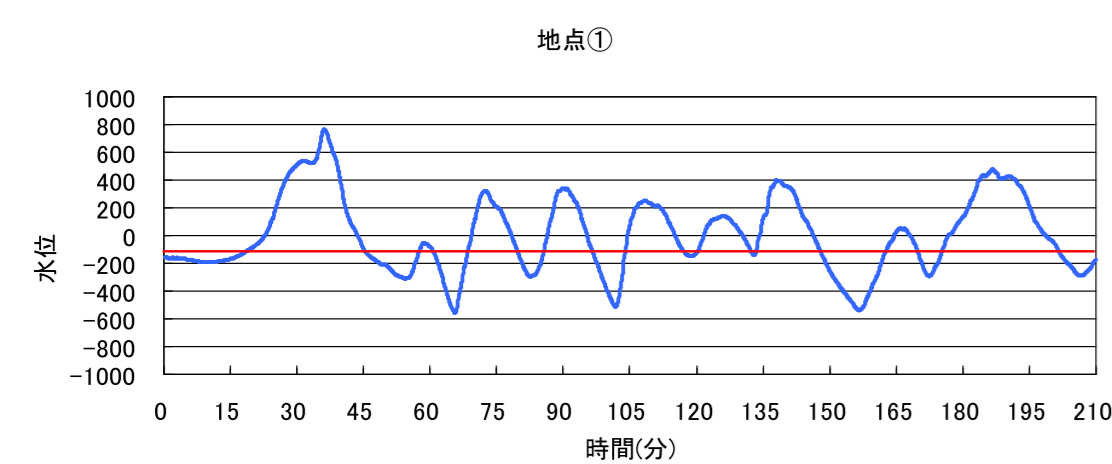
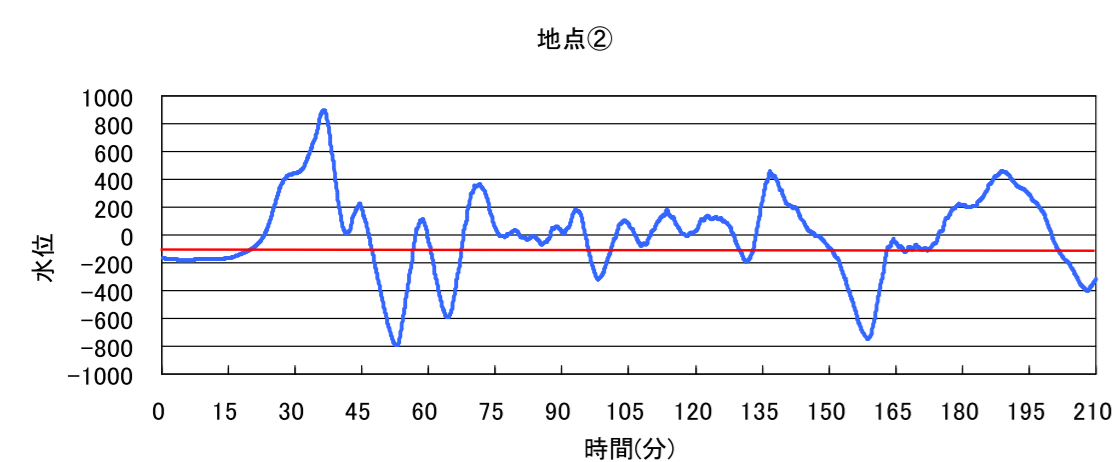
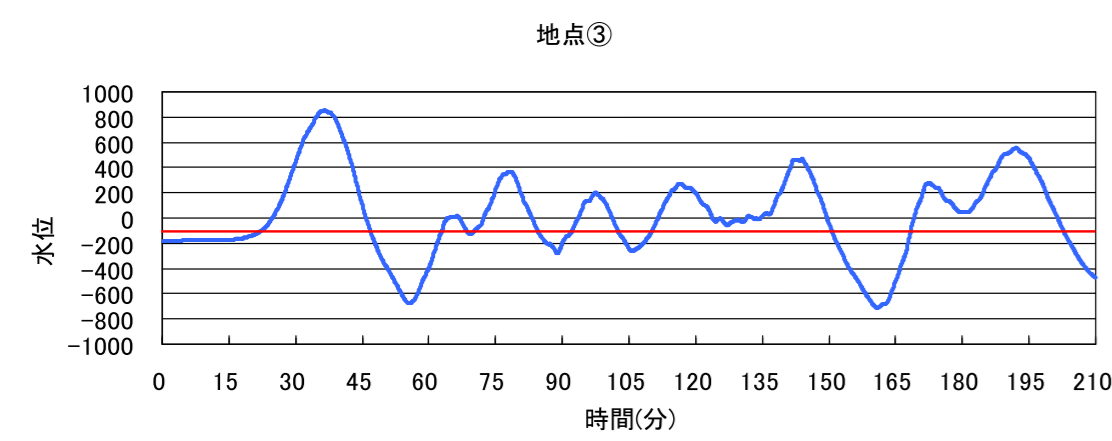
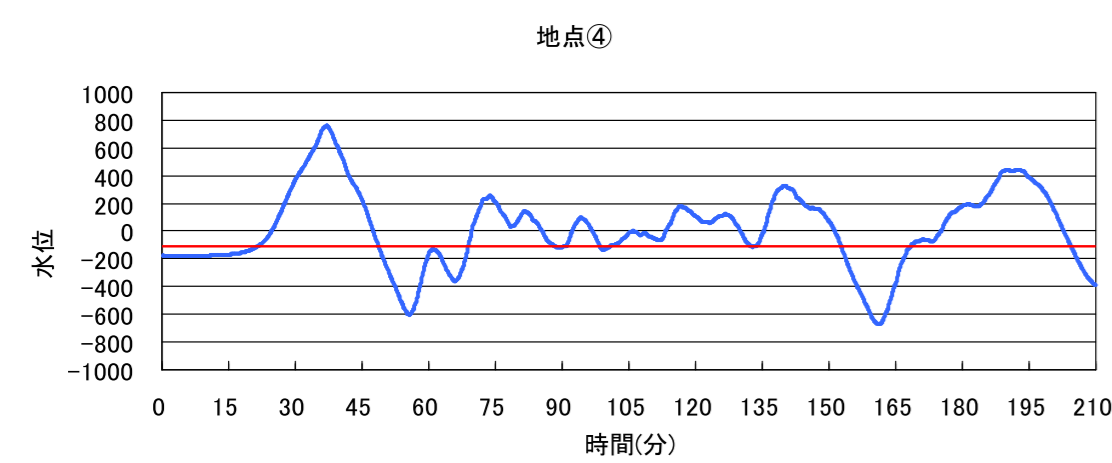
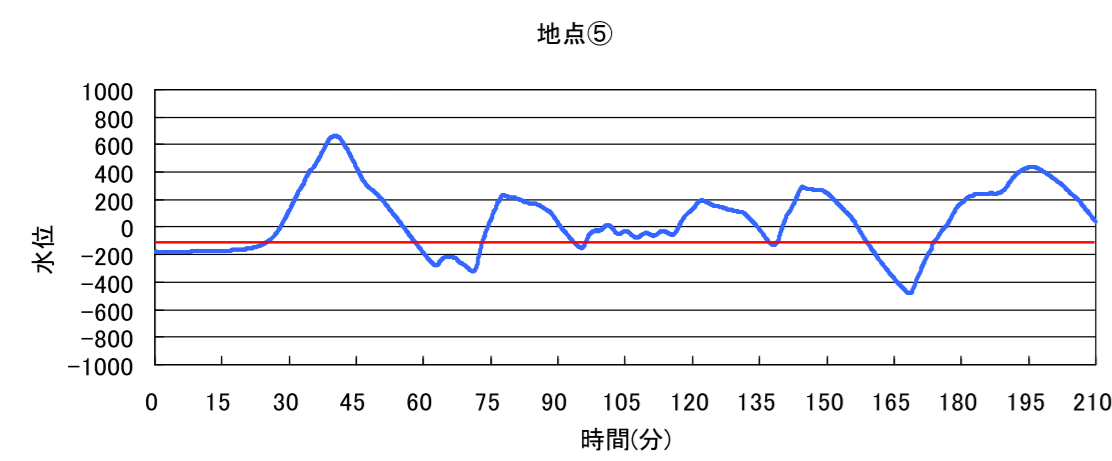


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 × 10 ²¹	2.15 × 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁
 作成年月：平成18年3月(初版)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



・試算には、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
 (承認番号 平17総機、第760号)
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。
 (承認番号 平17総使、第569号)

